

J R大系線存続問題

5月13日に開催された「大系線利用促進輸送強化期成同盟会」で、牛越大町市長は、3月に行ったJ R西日本金沢支社や同社糸魚川地域鉄道部での要望行動について、「支社、鉄道部ともに『南小谷!糸魚川間の廃止は頭はない』と回答があった」と報告したそうです。

大系線の存続問題は糸魚川市民にとっても大きな問題です。J R西日本が廃止は念頭ないと表明したことは明るいニュースですが、今後の動向に目が離せません。

以下は「大系タイムス」5/14記事の紹介です。

「南小谷以北存続を」 利用促進期成同盟会が総会

松本市から糸魚川市までのJ R大系線の沿線市町村や商工団体などをつくる、大系線利用促進輸送強化期成同盟会(会長=牛越徹大町市長)は13日、今年度の総会を松本市のホテルブエナビスタで開いた。

北陸新幹線開通後のあり方が懸念される南小谷以北の経営存続や、沿線住民や観光客の利用促進についての取り組みを決めた。

今年度事業は南小谷以北のJ R西日本による経営存続に向けて関係機関への要望活動や、昨年度制作し好評だったパンフレット「大系線の旅」の増刷などの利用促進事業に取り組むとした。会合内では、輸送強化と高速化、特急の午後の乗り入れ増を望む声なども出された。

3月に行ったJ R西日本金沢支社や同社糸魚川地域鉄道部での要望行動について、牛越市長は「支社、鉄道部ともに『南小谷ー糸魚川間の廃止は頭はない』と回答があった」と報告。

一方で利用者の減少傾向の中、イベント列車の企画、沿線へのPRなどで利用者増に取り組むとした。

糸魚川市を中心に昨年度行われた全通即周年記念事業について、実行委員長の米田徹糸魚川市長が報告。イベントに3万7000人が訪れ、ピンバッジやカレンダーなどグッズの売り上げは500万円を超えた。現役で走るディーゼル車の希少価値などが人気で、事業は好評だったとした。

牛越市長は「記念事業で多くの人に大系線の重要性を再認識していただけた。利用者減の中、利用促進PRを積極的に考えたい」とあいさつした。

役員改選も行われ、会長に牛越市長が留任した。任期は2年。

【 5/14 大系タイムス 】